

循環型社会形成へ 建設業にできること

富士常葉大学環境防災学部 准教授
杉山涼子氏

最も必要な廃棄物の発生抑制

——今日は、循環型社会の形成に向けて建設産業には何ができるのか、お話を頂きたいと思います。まず始めに、循環型社会とは、どのようなものでしょうか。

一言で言うと3R、まず、廃棄物の発生を抑制する（Reduce）、再使用する（Reuse）、そして再生利用（Recycle）がなされている社会であるということです。

三つのRのうち一番進めるべきなのは発生抑制で、そもそも無駄なものは作らない、使わない、そして廃棄物を出さないということが一番のポイントです。循環型社会に対比する言葉として、従来から「大量生産、大量消費、大量廃棄」と言われていますが、ともすると大量生産、大量消費までは今までと同じようにしていても、最後にどんどんリサイクルすればいいではないかという誤解をされる向きもあります。しかし、それは大きな間違いです。今の社会は、こんなにたくさんものを作っていて本当に無駄になっていないかということがありますし、消費する側としても無駄な物を



杉山涼子氏略歴

大阪大学工学部環境工学科卒業。東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。（株）杉山・栗原環境事務所取締役。社会資本整備審議会環境部会建設リサイクル推進施策検討小委員会、中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会、公共工事の環境負荷低減施策推進委員会をはじめ、中央官庁・自治体の環境関連委員会の委員等を数多く務める。

買って、すぐに捨ててしまったりということのないように、きちんと資源を有効利用していくことが大事です。日本は資源自体を輸入に頼っている部分も大きいわけですから、資源を適正に利用し、廃棄物の発生を抑制することを考えていかないと、資源をどんどん使って、どんどんリサイクルしてということでは、今後立ち行かなくなる。そこをきちんと理解することが、まず循環型社会形成のポイントだと考えています。



——数年前から、ある先生が著書等で、リサイクルするより廃棄した方がエネルギーも無駄にならないと、安易なリサイクルに警鐘を鳴らしてベストセラーにもなっていますが、杉山先生はいかがお考えですか。

リサイクルは3番目のRで、一番優先すべきは廃棄物の発生抑制だと考えています。私が、この先生と考え方が違うのは、リサイクル自体も適正なリサイクル、その素材に相応しいリサイクルをすれば、環境負荷の低減や資源の有効利用に繋がりますので、決してリサイクルを否定するものではない点です。しかし、一部に「リサイクルすればいいんでしょ」という風潮がないこともないと感じます。

一言でリサイクルと言っても、製品からまた別の製品に再生する、コンクリートであれば新しいコンクリートの材料にする、という使い方もありますし、廃棄物を燃やした熱を有効利用するというリサイクルもあります。色々なリサイクル技術・方法がありますし、技術開発も盛んに行われていますので、ただ闇雲にリサイクルするのではなく、「これは、どういう方法で

リサイクルすれば環境負荷が最も少なく、資源も有効利用できるか」という議論をきちんとして、「では、この方法でリサイクルを進めよう」という方針を定めてから行うことが必要だと思います。

——次に、循環型社会を実現するには、政治経済を含めた社会のあり方や、人々の意識がどのようになっていくべきでしょうか。

企業にしろ一般市民の方にしろ、それぞれの立場から環境に配慮していく姿勢、これからの社会は今までのような使い放題、人間の好き放題では済まされないという意識を持ち、それを実際の行動に繋げていくことが必要です。日常のごみの問題、省エネの問題、そういった一つ一つのことに対する意識や実際の行動の底上げを、全般的にしていくことです。普通に生活を営む市民の側面と企業で働く企業人の側面を併せ持つ方も多いわけですが、環境に対しては、どちらか片方だけからではなく色々な視点・視野から見ていくことも必要です。

また、意識と行動ということでは、環境に配慮した製品と、そうではない製品の二つがあった場合に、環境に配慮した製品が非常に高価であったり、それを使用するがために不便があったりすると、いくら環境に良くて……ということもあると思いますので、それほど経済的な負担がなく環境配慮した製品が使えたり、何か環境に配慮した行動をすることによってメリットが得られるような形にしていかないと、精神論だけで環境配慮を推し進めても広く皆さんに受け入れられるのは難しいと思いますので、経済的な面からの受け入れられやすさを考えることも重要です。

環境に配慮した製品の場合、やはり価格が一つの非常に大きなハードルになりがちです。建設業の方でも、工事に使いたいけれどもちょっと価格が高すぎてということも当然あるでしょう。その点は、数量がまとまらないと価格が割高になって世間に受け入れられにくいというのであれば、最初の段階では公共部門が少し後押しして、うまく普及が進んだら後は民間ベースで進めるというのが理想だと思います。そのような面では、公共政策もとても大事だと思います。